資料提供
令和２年11月25日
農業技術センター
果樹研究部
担当｜池田
電話｜0846-45-1225

広島県立総合技術研究所
Hiroshima Prefectural Technology Research Institute

総合技術研究所と農研機構が共同で技術開発
～イチジクの難病を世界で初めて克服～

研究の背景

広島県は，イチジク品種「蓬莱柿（ほうらいし）」の主要産地の一つです（写真1）。しかし近年，樹を枯死させる難病のイチジク株枯病（以下，「株枯病」）が全国のイチジク産地に広がっており，広島県でも問題となっています。株枯病は，一度発生すると土中に病原菌が残って何度も再発し，イチジクの樹が枯死するため，同じ場所でイチジクの栽培はできなくなります（写真2）。

写真１　イチジク「蓬莱柿」

写真２　伐採されたイチジク樹

研究内容及び活用方法

そこで，広島県立総合技術研究所（以下，「総研」）と国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構（以下，「農研機構」）は，日本在来のイチジク属の野生種であるイヌビワとイチジクの掛け合わせに世界で初めて成功し，株枯病にかからない台木新品種「励広台1号（れいこうだい）」（以下，「新台木」）を育成しました（図 1）。この新台木を使えば，イチジクの難病が克服でき，株枯病が発生してイチジクが栽培できなくなっていた場所でも，再び栽培できるようになります。

新台木を利用した苗木は令和４年秋以降に販売され，県内の生産者に使ってもらえるようになる予定です。

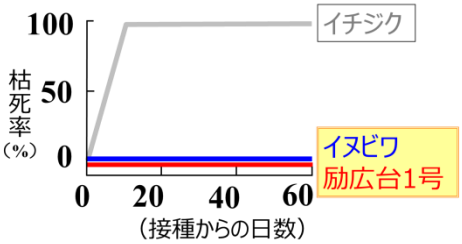

図１　株枯病菌の接種実験

開発のポイント

野生種イヌビワは，株枯病に耐性がありますが，イチジクとは性質が大きく異なるため，接ぎ木が出来ませんでした。

今回，総研と農研機構がイヌビワとイチジクを掛け合わせて育成した新台木は，イヌビワの株枯病にかからない性質を維持しつつ，「蓬莱柿」等のイチジクを接ぎ木することができる「台木」としての利用が可能です（図 2）。

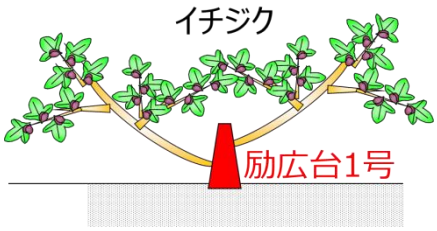

図２　栽培イメージ図

品種登録出願番号：励広台１号：「34378号」（令和２年３月11日出願公表）

※本研究の一部は，生研支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業」において実施しました。

取材対応

取材窓口：（当品種について）広島県立総合技術研究所 農業技術センター果樹研究部（池田） 0846-45-1225
総合窓口：（その他総合技術研究所の概要について） 広島県立総合技術研究所企画部（梁井） 082-223-1200